

## 23 心肺蘇生法

### はじめに

学習指導要領にどのように書かれているかを確認することから始めます。この単元は学習指導要領上の位置づけとしては、オ 応急手当 (ウ) 心肺蘇生法 の内容に該当します。

指導要領解説には、

心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であることを理解できるようにする。その際、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫などの原理や方法については、実習を通して理解できるように配慮するものとする。

内容の取扱いでは

(1) のオについては、実習を行うものとし、呼吸器系及び循環器系の機能については、必要に応じて関連付けて扱う程度とする。また、効果的な指導を行うため、「体育」の(D水泳)などとの関連を図るように配慮するものとする。

と書かれています。

#### 【理解できるようにすること】

- 心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあること。
- 速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること
- 気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫などの原理や方法（実習を通して）

### 授業づくりの実際（指導と評価の一体化を意識して）

内容の取扱いの(8)には、指導に際しては、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする。となっています。これは、「保健」の指導に当たっては、知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を積極的に行うことにより、思考力・判断力等を育成していくことを示したものである。指導に当たっては、ディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイング（役割演技法）、実習や実験、課題学習などを取り入れること、地域や学校の実情に応じて養護教諭や栄養教諭、学校栄養職員など専門性を有する教職員等の参加・協力を推進することなど多様な指導方法の工夫を行うよう配慮することを示したものです。

実習を取り入れる際には、応急手当の意義や手順など、当該する指導内容を理解できるようにすることに留意する必要がある。

《例示》

【知識・理解】→指導方法と評価方法の検討

- 心肺蘇生法の意義と原理
- 心肺蘇生法の手順
  - ・胸骨圧迫
  - ・気道確保と人工呼吸
  - ・AEDの使用

**【技能】** →指導方法と評価方法の検討

○心肺蘇生法の手順に従って、人体人形を使って、実習を行う。

**【関心・意欲・態度】** →評価方法の検討

○今日の学習のどの場面でどのように評価するか。

上記の指導方法や評価方法を念頭に、指導内容の順序や発問の仕方、知識を活用する学習活動の取り入れ方などを工夫し、1時間の授業を組み立てていきます。

**本単元のキーワード**

「除細動」「AED」「胸骨圧迫」「気道確保」「人工呼吸」